

IR（統合型リゾート）

政府は「観光先進国」の実現に向けて日本型IR（統合型リゾート）推進に取り組んでおり、IRの一部となる力ジノについて、「世界最高水準の規制」を含め、「世界最高水準の規制」を導入する検討もなされています。

長崎県は高いポテンシャルを有する「地方創生型IR」導入の最適地であり、大都市にはない長崎・九州の独自の自然、歴史文化等、多様な観光資源を活かす「おもなしネットワーク」により良質な雇用の創出、交流人口の増加などにより人口減少に歯止めをかける等の効果が期待されます。

長崎県、佐世保市のIR構想は、既存のアミューズメント施設であるハウステンボス関連施設と合わせて、ホテル、MICE、ショッピングモール、レストラン、劇場、カジノ等の周辺追加投資により富裕層、ミドル層など幅広い層をターゲットとした誘致を目指しています。

- 「観光振興に寄与する諸施設」と「カジノ施設」が一体となっている施設群
- カジノの収益により、大規模な投資を伴う施設の採算性を担保
- 民間事業者の投資による
 - ・集客及び収益を通じた観光地域振興
 - ・新たな財政への貢献

市岡ひろみち後援会だより

平成29年12月号



ひと、輝く街『佐世保』。 わがままが言える街『佐世保』を目指して。

- 第44代議長就任。
- 基地対策関係予算確保要望。
- 西九州自動車道4車線化。
- 九州新幹線西九州ルート。○IR（統合型リゾート）。

市岡ひろみち後援会報
2017年12月号
市岡ひろみち後援会
〒857-0834
佐世保市潮見町1-30-507
TEL&FAX0956-31-5464



第44代議長就任

去る5月18日の臨時市議会におきまして、議員各位のご推举を賜り、佐世保市議会第44代議長に就任いたしました。誠に身に余る光栄であり、その職責の重大さに身の引き締まる思いであります。一元代表制の一翼を担う議会といたしましては、市民生活の安定と福祉の向上を基本に置きつつ、議決機関及びチェック機関としての基本的役割を十分に果たしながらも、議会としての政策立案や調査能力等を高め、行政に対し高度な提言を行い更なる効率化を果たしていくなど、当局との協働体制を基調としながら、行政施策の推進を積極的に支援してまいりたいと考えております。

本市発展のため誠心誠意努力いたす所存でございますので、何とぞ皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



菅官房長官面談 佐藤防衛施設問題議連事務局長

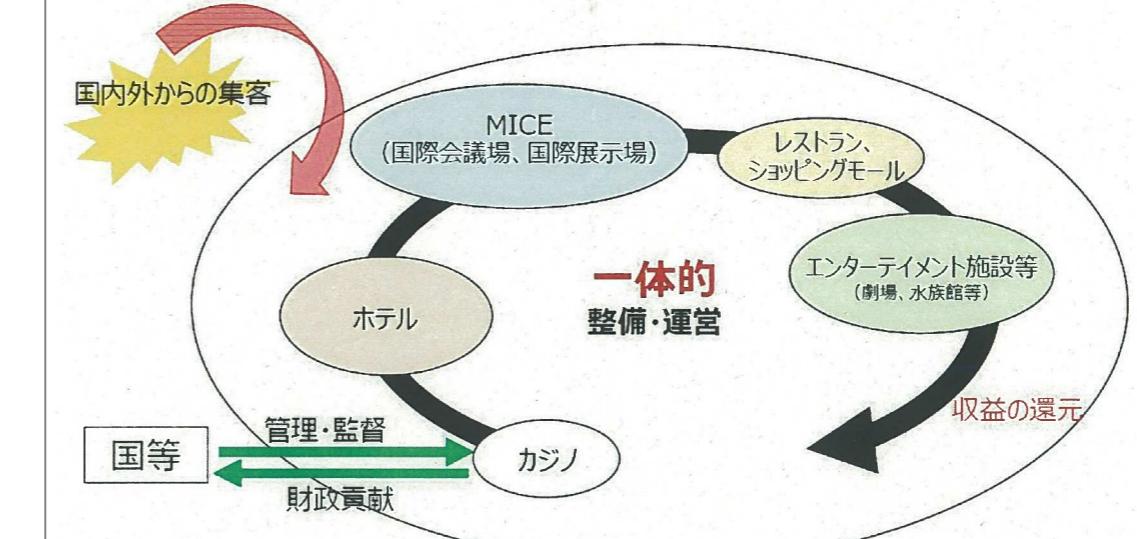


福田淳一・財務事務次官 深山延暁防衛省地方協力局長



岡本薰明・財務省主計局長 今枝宗一郎・財務大臣政務官

- 平成29年7月12日 現在の会長市は佐世保市で、正副会長・監事・相談役会他
- 平成29年7・8月 基地関係国會議員との情報連絡会
- 平成30年度基地対策関係予算確保（概算要求時）要望活動
- 等を行いました。



「特定複合観光施設」を一体として構成すべき中核施設を以下の機能を有するものと整理。これらの機能を有する施設は、それぞれ我が国を代表する施設としてIR区域内にカジノ収益を活用し整備され、国際競争力の高い滞在型観光の実現を目指す。これによって、2030年に、訪日外国人旅行者数について6,000万人、旅行消費額について15兆円を目指す等の公共政策の実現を強力に後押しする。



上記の中核施設の具体的な内容及び他の施設の種類・コンテンツについては、**民間事業者の資金・自由な発想**を活かし、より魅力的、かつ、高い経済効果を有する施設の整備・運営を実現

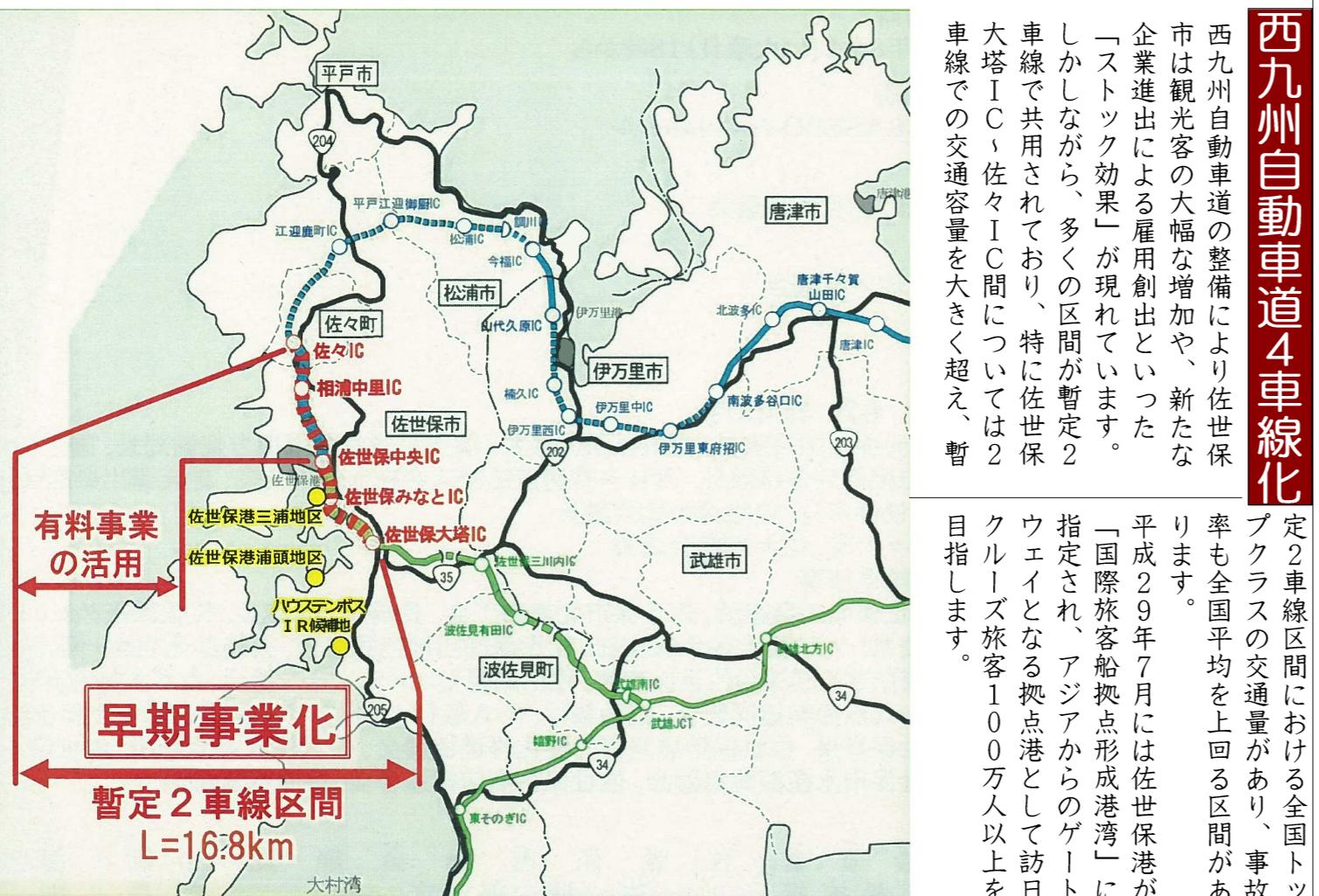
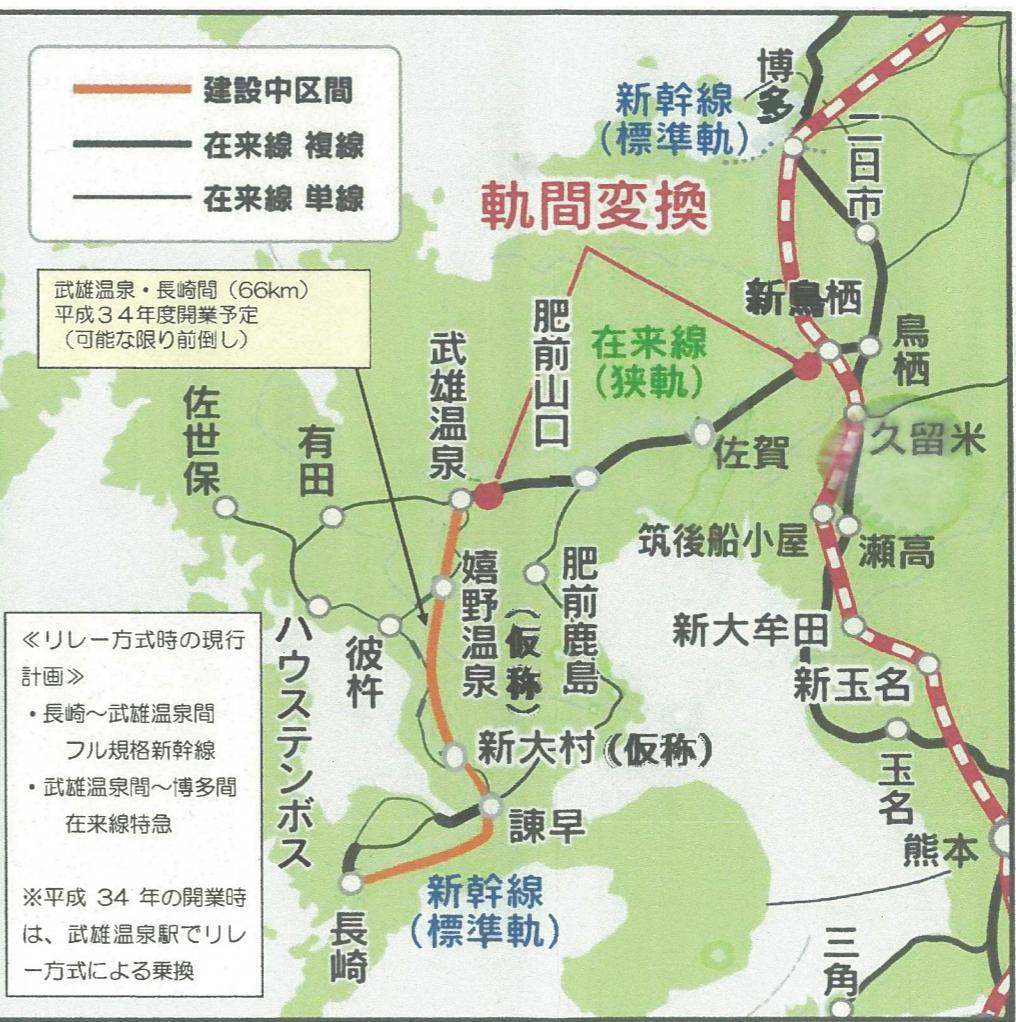


九州新幹線西九州ルート

平成29年7月25日JR九州は、

九州新幹線長崎ルートへのフレーダーイジトレイン（軌間可変電車、以下、「FGT」）導入について、性能

の確認試験で、台車の車軸に摩耗が見つかったため平成34年度の先行車導入を断念する意向を正式に表明しました。



西九州自動車道4車線化

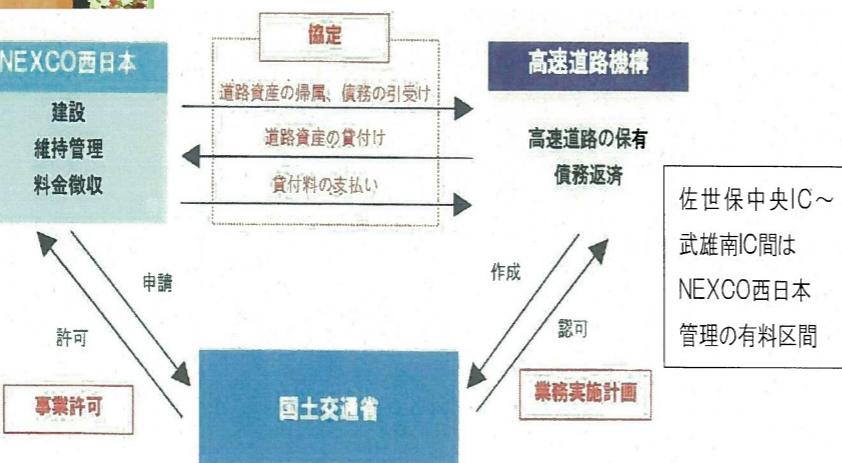
西九州自動車道の整備により佐世保市は観光客の大幅な増加や、新たな企業進出による雇用創出といった「ストック効果」が現れています。しかしながら、多くの区間が暫定2車線で共用されており、特に佐世保大塔IC、佐々IC間に於ける車線での交通容量を大きく超え、暫

定2車線区間における全国トップクラスの交通量があり、事故率も全国平均を上回る区間があります。平成29年7月には佐世保港が「国際旅客船拠点形成港湾」に指定され、アジアからのゲートウェイとなる拠点港として訪日クルーズ旅客100万人以上を目指します。

西九州自動車道4車線化促進大会(平成29年8月1日)



平成29年8月1日、西九州自動車道4車線化促進大会が佐世保市長、佐世保市議会議長主催により開催され、国会議員、知事、長崎県議会議長、佐々町長、佐々町議会議長、国土交通省九州地方整備局長、西日本高速道路株式会社社長を来賓に迎え、地方選出議員、推進団体の皆様、総勢約450名が早期実現に向けてガンバロー三唱を行いました。



JR九州が「現時点の導入困難」とした理由は維持費で、FGTは複雑な機構の台車を使用するため、整備点検に手間が掛かる上、車軸の摩耗が早く、車両の耐用年数までに10回以上の交換が必要になるとされています。国土交通省の検討結果では、一般的の新幹線車両の約2・3倍のコストとなり、JR九州の試算では、年間の車両維持などの費用が現在の新幹線車両より約50億円も増えるとしています。

FGT自体は素晴らしい技術です。スペンでタルゴ社が1968年から実用化し、フランスに直通する国際列車などで運用しています。FGTなら、改軌しないで新幹線を在来線へ直通できる範囲も広い。低コストでの全国新幹線ネットワーク実現の可能性を持つています。

平成29年7月28日に、検討委員会が開催され、長崎・佐賀両県に対する意見聴取が行われ、中村知事は、「FGT以外の選択肢による整備について検討を進めること、中でも、現在整備中の武雄温泉 - 長崎間のインフラを十分活用できる最善の選択肢として、フル規格により西九州ルートを整備すること」等について要望しています。

佐世保市では、様々な状況を注視し、「新幹線の直接乗り入れ」を目指して協議・検討しています。

